



農業試験場暖地園芸センター ニュース

第52号(2021.1)



当センターでは県オリジナル品種の育成や栽培技術の開発を通じて収益性の高い暖地園芸の振興に取り組んでいます。

さて、京都教育大との共同研究により、ししとうがらし‘ししわかまる’を育成し、昨年7月に品種登録出願公表されました。本品種は辛味果実を発生しないという特徴を持っています。辛味が苦手な方も新たに販売ターゲットに加わることでししとうがらし全体の消費拡大へ繋がることを期待し、生産拡大に向けて関係の方々とは検討しているところです。

また、国の事業を活用して、炭酸ガス発生機、細霧冷房、ヒートポンプ等を備えた複合環境制御型研究温室5棟、屋外型人工気象室2基等を整備し、ミニトマト、トルコギキョウ等の複合環境制御技術開発の試験に取り組んでいるところです。温室内の温度等の環境や植物の生育のデータを解析することで数値を基にした栽培管理が可能となり、生産性の向上や生産者間のバラツキの平準化が期待されます。

今後も、地域の農家や関係機関の方々からのご意見やご要望を踏まえて試験研究に取り組んで参りますので、なお一層のご指導、ご鞭撻をいただきますようお願いいたします。

(所長 鈴木 正人)

目 次

研究の成果

ミニトマト栽培における施設内CO ₂ 濃度の均一化	（東 卓弥）	2
辛味果実の発生しないシシトウ新品種‘ししわかまる’	（田中 寿弥）	3
和歌山県の気象条件に適したトルコギキョウのロゼット回避育苗技術	（花田 裕美）	4
スターチス・シヌアータにおける日没後短時間昇温処理 (EOD-heating) の効果	（菊地 悠太）	5
スターチス品種育成の取組	（岡本 崇）	6